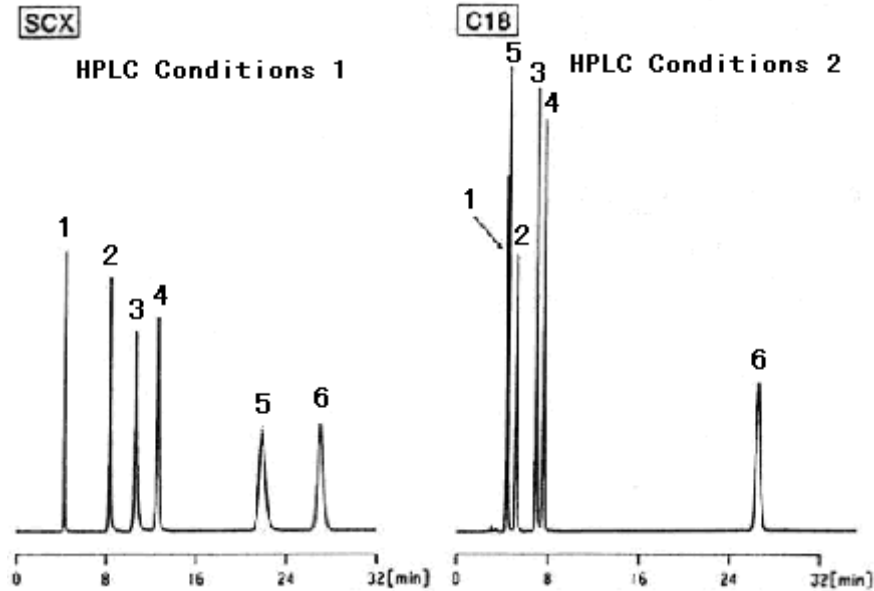


すべての成分が30分程度で溶出する条件を設定しました。  
 カプセルパック SCX UG80ではいずれの成分も良好に分離されているのに対し、カプセルパック C<sub>18</sub> UG120ではピリドキサミンの保持が大きいために他の5成分の分離が不十分となりました。特にニコチン酸とリボフラビンの分離においては、カプセルパック SCX UG80では大きく分離されているのに対し、カプセルパック C<sub>18</sub> UG120ではほとんど分離されていません。このように、疎水性相互作用のみでは分離不十分となる場合、疎水性相互作用以外にイオン交換作用も働くSCXカラムでの分析は大変有効な手段です。



1	ニコチン酸	2	ニコチンアミド (PP)	3	ピリドキサーール
	Nicotinic acid		Nicotinamide (PP)		Pyridoxal
4	ピリドキシン	5	リボフラビン (VB <sub>2</sub> )	6	ピリドキサミン
	Pyridoxine		Riboflavin (VB <sub>2</sub> )		Pyridoxamine

## HPLC Conditions 1

Column	CAPCELL PAK SCX UG80 : 4.6 mm i.d. × 250 mm
Mobile phase	0.1mol/L KH <sub>2</sub> PO <sub>4</sub> (pH3.00)
Flow rate	1.0 mL/min
Temperature	40
Detect	UV 270 nm

## HPLC Conditions 2

Column	CAPCELL PAK C <sub>18</sub> UG120 S5 : 4.6 mm i.d. × 250 mm
Mobile phase	10mmol/L 1-Sodium octanesulfonate, H <sub>2</sub> O / CH <sub>3</sub> CN = 82 / 18, pH2.30

Flow rate	1.0 mL/min
Temperature	40
Detect	UV 270 nm